



ゆずりはの森から

第191号
2019年7月8日発行



NPO法人
ゆずりは学園

小学生
中学生
高校生
大学生
社会人

家族は味方か？敵か？

好ましいのは、家族が味方であって、自分を守り、自分を支え、家にいて落ち着き早く家に帰りたいといった家族の形。でも、家にいるしかない子ども達、青年たちにとって、家族は味方でもなく、自分の拳手拳動をいつも見張る人であり、時には家族が自分を殺す他人になったりします。



今もどこかで同じようなことが起きているのです。

家族とは、本当に難しい問題です。「私の家のことです。口出ししないでください」と言った言葉は、正しいのです。でも、時には、口出ししないと、おせっかいなおばさんがいないと、大きな悲劇になることもあります。「距離を取る」ことが大切です。「隙間を作る」ことが大切です。そこに他人を作ることができるのです。家族以外の「信頼できる他人」がいると救われるケースもあります。

このころ、毎日のように電話がかかります。ゆずりは学園を出て行っても10年以上経った人から、またこの間出て行った卒業生からと。相手があるケース、自分の心の重い課題、対応は違いますが、相手が家族である場合は、時間の余裕もなく、何をすることも支えてくれないすべてがマインナだからこそ、一番難しいケースになるかも知れないと思います。

教育機会確保法の成立から二年以上経ちました



不登校の子ども達を応援する新しい法律が2017年2月14日に制定されてから、二年が経ちました。不登校の子ども達は、毎年13万人以上。この数字は私たちがこのフリースクールを設立してから、変わることなく、横ばいしています。今、国は「不登校の子ども達の教育の機会を十分に確保します」という法律が出来たのです。

《第3条 基本理念》

すべての子どもが豊かで安心できる学校にすべし

- 一人ひとりにあった支援をする
- 不登校の子どもが安心できる学校にすべし
- 子どもの意思を尊重し、年齢や国籍その他の事情に関係なく義務教育が受けられるようにする
- 国、地方公共団体、フリースクール

《13条のポイント》

休んで良い 学校以外の場の重要性
フリースクール等に通うことも重要とあり、「学校や地方公共団体は、子どもや親に必要な情報提供をする」とあり、情報の提供を促しています。

しかし、やはり法律は制定されても、まだまだ子ども達の家庭に、十分の情報は届いていないのが現状です。全国で、13万人、隠れ不登校を入れると44万人。
18年前に設立したフリースクール、当時はフリースクールの名前も知られていなかった時から、まだまだ多くのことは変わっていないのが、現実です。

6/1 (土) 全国海ごみゼロ活動に参加して

発達障害親の会 ゆず茶 (202回)
○日時/7月12日(金) PM1:30~3:00
○場所/ゆずりは学園
(奇数月金曜日: 9/20からは田原市中央図書館)
発達障害対応マニュアル本「異空間のドアを開けて」1,500円 (販売中)

ゆずりは学園事務局
〒441-3421 田原市田原町池の原15-3
TEL: 0531(22)3515 FAX: 0531(22)7761
e-mail: kutsuna_ike@yahoo.co.jp
http://www.yuzuriha-gakuen.com/
http://ameblo.jp/yuzurihaschool/
http://ameblo.jp/kutsuna-diary/

6/1 (土) AED 毎年開催される救命講座

募集 NPO法人 ゆずりは学園 会員希望者

- 賛助会員/年会費2,000円
- 正会員/年会費5,000円
- 寄付/自由

銀行
三菱東京UFJ銀行(普) 田原支店
□座名義/ゆずりは学園 理事 谷名智彦
□座番号/3627714

郵便局
□座名義/特定非営利活動法人 ゆずりは学園
□座番号/00870-6-136039
お便りを郵送します。お名前・ご住所をご連絡ください。

6/13 (木) スクーリング (化学基礎)

今月のSHOT

6/20 (木) スクーリング (コミュニケーション英語II)

6/9 (日) 保護者会 (田原文化会館)

不登校「大丈夫と見守って」 名古屋 関係者がシンポジウム

不登校の子どもたちへの支援について意見を申し出た(左から)横地さん、山田さん、谷名さん、石井さん。名古屋千種区の相山女子学園大が丘キャンパスで。

子ども不登校を考えるシンポジウムが9日、名古屋千種区の相山女子学園大が丘キャンパスで、不登校経験者で専門紙「不登校新聞」編集長の石井志登さん(左2番目)と東京都の識者4人が意見を交わした。他入は、フリースクールのゆずりは学園(田原市)の常務理事長谷も、不登校の会グループ(二宮市)の山田昭代表、スーカルカウンセラー横地香江さん(豊田市)が参加した。シンポジウムでは、当事者の親ができることを検討。中学二年で不登校になった石井さん、元官僚が引退した石井の長男を刺激した事件に、触れ親が子どもを刺激するのは絶対やってはいけない

「と強調。機嫌よく本人を否定するのではなく、「大丈夫」と見守ってほしい」と願った。娘入が登校した山田さんは「一番苦しむのは親の余計なお世話」と話し、親戚や近所の人で子どもを悩ませる場合が多いと指摘した。インターネットやゲームとの付き合い方は「(当事者)にとってゲームは命の伴輪」と表現。機嫌よくした。石井さんは「(当事者)の回復を切った方がいい」と話した。

不登校の子どもや親を支援する「不登校・学びネットワーク東海」(名古屋)が主催し、百四十人が参加した。(松野理恵)

中日新聞県内版(6月11日) ※実際の記事とはレイアウトが変わっています。